

「旬」の植物紹介(6月編)

サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ([ツバキ科](#) [サカキ属](#))

神棚に供える木、玉串の木といえば「サカキ」とすぐに思い浮かぶのだが、最近の若い人にはピンとこなくなりつつあるようだ。

日本では、枝葉を神事に使うため「神に捧げる木」を表す「神」と書くが、これは日本独特の表現で、中国では「揚桐(ようとう)」となるらしい。



↑サカキの葉
全縁で光沢がある(雑学辞典から転載)



↑サカキの冬芽
鎌状に湾曲しており、この形が「勾玉(まがたま)」に似ている(同左)

『岡山県では、サカキの少ない沿岸域では「ヒサカキ」、同じく県北では「ソヨゴ」を代用として使っている。』とあるが、沿岸域の備前市島嶼部や海岸近くには意外とサカキを見る機会が多い。県北では見かけたことは無い。

サカキの材は、硬くて農機具や杵、天秤棒、船の棹(さお)などに用いられ、昔は床柱や桁材としての利用もあったとのこと。葉っぱだけでは終わらないところがニクイ。

さて、なぜ6月の植物なのか。理由は6月に花を咲かせていたからである。ミカンの花を連想するようなおとなしい花を咲かせ、1週間ほどで終わってしまう。なかなかお目にはかかれませんが、においを嗅ぐとほんのり甘い香りがする。



←サカキの花
(2022.6.14 備前市)

岐阜県郡上市には、目通り 175cm 樹高 9m の古木があるという。いつも目にするサカキは太くても 20 cm くらい。いくつの歳月を重ねたのだろう、訪ねてみたい樹木である。

引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」
川尻秀樹 著「読む植物図鑑 3」
山と溪谷社刊「樹木の名前」